

## 2019 年度中央大学共同プロジェクト 研究実績報告書

### 1. 概要

研究代表者	所属機関	経済学部		2019 年度助成額
	氏名	吉見太洋		9,480 (千円)
	NAME	Taiyo Yoshimi		
研究 課題名	和 文	企業の輸出経験がもたらす学習効果：中小企業向けアンケートに基づく研究	研究 期間	2019 年度
	英 文	Learning effect of export experiences: questionnaire study on Japanese small and medium enterprises		

### 2. 研究組織

※所属機関・部局・職名は2020年3月31日時点のものです。

	研究代表者及び研究分担者		役割分担	備考
	氏名	所属機関/部局/職		
1	吉見 太洋	中央大学・経済学部・准教授	プロジェクトの全体統括 および、理論分析の実施	研究代表者
2	鯉渕 賢	中央大学・商学部・教授	アンケート調査の実施と データの管理	研究分担者
3	早川 和伸	アジア経済研究所・開発研究センター・主任研究員	実証分析の実施	研究分担者
合計		3名		

3. 2019年度の研究活動報告 ※行が不足する場合は、適宜、行を追加してご記入ください。

(和文)

本研究プロジェクトでは、企業における海外展開、特に輸出の開始とその経験の蓄積が、外貨建てのキャッシュフローから発生する為替リスク等のリスク管理体制構築や、財務状態にどういった影響を与えるかを、アンケート調査を通じて明らかにすることを目指している。本プロジェクトの開始年度となった2019年度には、中央大学共同研究プロジェクトとしての支援を受け、帝国データバンクの協力のもとアンケート調査を実施した。調査対象は日本国内に所在する中小企業から抽出した2,100社で、回収率は14.1% (296社)であった。アンケート調査は調査票の送付という方法を取り、2019年12月9日から2020年1月31日にかけて実施した。

本研究プロジェクトの当初計画では、2019年度中に調査結果を用いた実証分析を行い、ワーキングペーパーの形で成果の公表を行うことを目指していた。しかしながら、アンケート調査項目の選別や、予算規模を踏まえた調査規模の検討に時間を要したため、年度内の成果としてはアンケート調査を実施し、一定の集計作業を完了するまでに留まった。一方で、アンケート調査項目の選別に十分な時間をかけたことにより、当初計画していたよりも多くの貴重な情報を協力企業から頂くことができた。スケジュールの面では当初予定よりも若干の遅れが発生したが、内容の面では当初計画よりも大きな成果が得られたと考えている。予算の執行という観点からは、費目によって当初予算と一定の差異が発生したが、大部分は帝国データバンクからの財務データ購入を消耗品費ではなく、手数料に算入したことによるものであった。

本研究プロジェクトは、研究代表者の吉見および分担者の鯉淵・早川の三名で構成されている。大まかな役割分担は、吉見がプロジェクトの全体統括および理論分析、鯉淵がアンケート調査の実施とデータ管理、早川が実証分析の実施となっている。ただし、これらすべての作業において、どういったアンケート項目を設置するかは基礎となる重要な課題であった。したがって、調査の実施に先立って、研究メンバー全員でアンケート項目の決定とアンケート用紙の作成を進めた。アンケート項目の決定にあたって、吉見は理論分析に基づく先行研究を中心に、早川は実証分析に基づく先行研究を中心に精査し、輸出経験蓄積と企業行動の関係を適切に観察するためのアンケート表のたたき台作りを行った。鯉淵は吉見と早川で作成したアンケート表のたたき台を精査した上で各項目の詳細を整理した。さらに鯉淵はアンケート調査実施の際、帝国データバンクとの連絡の主要な役割を担った。調査結果が整った現在は、再び研究メンバー全員で、実証分析の実施を目指してデータの整理を行っている。

今後は得られたアンケート結果と財務データを用いて、輸出経験の長さによって財務状況や企業行動に違いがあるかどうかを検証する。2020年度内には一通りの分析を完了し、研究会・学会発表を通じた成果の周知と、論文執筆を進めていきたいと考えている。

(英文)

In this project, we conducted questionnaire research for Japanese small and medium enterprises. The aim of the research is to know how export experiences affected their behavior. In particular, we studied how their choice of invoice currency, the scheme of exchange rate risk management and the financial status changed after they continued exporting for years. We sent the questionnaire to 2,100 companies and accepted responses from November 9, 2019, to January 31, 2020. The response rate was 14.1%.

At the beginning of the project year, we aimed to publish a working paper using the result of our questionnaire research. In the end, we could not attain this goal because we spent a longer time to prepare for the questionnaire than we expected. However, thanks to having spent enough time to make very detailed questionnaire, we could obtain a very rich information from response companies. We will soon investigate the effect of export experiences on firms' behavior using this information and try to publish a working paper by the end of the next year.

